

MEDIA INFORMATION



2008 CIK-FIA ワールドカップ カートレース IN JAPAN

2008 CIK-FIA WORLD CUP KART RACE IN JAPAN 鈴鹿サーキット 国際南コース 1.264km

2008年5月 23日(金)・24日(土)・25日(日) ファイナル

- 開催クラス：CIK-FIA WORLD CUP FOR KF1 / CIK-FIA ASIA-PACIFIC KF2 CHAMPIONSHIP
- オーガナイザー：鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- プロモーター：株式会社 モビリティランド
- 公認：国際カート委員会(CIK) / 国際自動車連盟(FIA) / 社団法人 日本自動車連盟(JAF)
- 後援：鈴鹿市 / 鈴鹿商工会議所 / 鈴鹿市観光協会 / 鈴鹿モータースポーツ市民の会 / (予定) カートメーカーインポーター協会(KMIA) / 日本カートランド協会(JKLA) / 日本選手権オーガナイザー会(JKOA) / 有限責任法人SLカートスポーツ機構(SLO)



ゆうえんち入園料でご覧いただけます。(※各日とも1日のみ有効)

料金(ゆうえんち入園料)		
大人 (中学生以上)	子供 (小学生)	幼児 (3歳~未就学児)
1,600円	800円	600円

お車でお越しの方は、ゆうえんち駐車場に駐車いただき、無料シャトルバスをご利用ください。

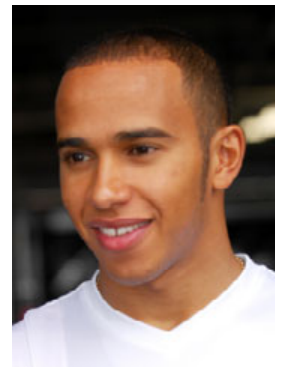
■無料シャトルバス運行区間：正面ゲート⇄国際南コース

F1を目指してアロンソも、ハミルトンも、トゥルーリもバトンも同じ道を歩んだ。国際南コースを制したものが頂点への第一歩を記す！カート最高峰レースに今年も世界の精鋭が結集！！



フェルナンド・アロンソ

昨年F1世界選手権でマクラーレン・メルセデスのチームメイトながら、最終戦まで息詰まるチャンピオン争いを展開したフェルナンド・アロンソとルイス・ハミルトン。世界中が注目した戦いの主役はともにCIK-FIAワールドカップ カートレースで、F1への第一歩をスタートさせたのだ。アロンソは1998年に出場。この年は豪雨に見舞われ決勝レースは中止となったが、予選ヒートでトップを獲得するなど、速さの片鱗を見せつけた。一方ハミルトンは舞台をツインリンクもてぎに移して行われた2000年に見事優勝。そのまま頂点への階段を駆け上ったのだ。他にもワールドカップ カートレースは数々のF1ドライバーを輩出してきた。94年、95年と2年連続優勝を飾ったヤルノ・トゥルーリは今季もトヨタのエースとしてF1に参戦する。F1ホンダチームのエース、



ルイス・ハミルトン

ジェンソン・バトンも96年FAクラス3位表彰台を獲得。今季ウィリアムズチームで3年目のシーズンを迎えるニコ・ロズベルグも2000年(もてぎ)に参戦して活躍している。やはりワールドカップ カートレースはF1を目指す者にとって重要なタイトル。それだけに今年も世界中から精鋭たちが国際南コースに結集することになる。



ジェンソン・バトン



ヤルノ・トゥルーリ

驚異のハイスピードで繰り広げられる世界最高峰の戦い、それがワールドカップ カートレース IN JAPANだ！

現在F1を始め、国内最高峰のフォーミュラ・ニッポンなどのトップカテゴリーに参戦しているドライバーの多くが、レーシングカートからそのレースキャリアをスタートさせている。現在世界各国で様々な選手権シリーズが開催され、国内でもカートレース IN SUZUKAシリーズから、国内トップ選手が競う日本選手権までが開催されているが、それらの上に位置するのがアジア・パシフィック選手権、ヨーロッパ選手権、そして頂点が世界選手権となる。CIK-FIAワールドカップ カートレースは、この世界選手権と並ぶ格式を誇る世界最高峰レースで、1991年に初開催。99年まで鈴鹿サーキット国際南コースで、2000年はツインリンクもてぎで開催。そして06年、国際南コースで6年ぶりに復活し、世界から結集した精鋭たちが熱戦を繰り広げたのだ。

今年も同様の戦いが繰り広げられるのは確実だが、それをさらにハイレベルにしているのが、昨年からのレギュレーション変更だ。これまでのFAクラスが新たにKF1クラスとなり、エンジン排気量は100ccから125ccへとアップ。エンジン回転数は16,000回転に制限されるものの、その性能は驚くほどアップ。また、併催クラスのアジア・パシフィック選手権ICAクラスはKF2クラスへと変更。エンジン排気量はKF1クラスと同じ125cc。エンジン回転数は15,000回転に制限されるものの、パフォーマンスアップが期待されるのだ。これまで以上にハイスピード、ハイレベルな戦いが展開されることになる。

F1テストドライバーの山本左近も、昨年のフォーミュラ・ニッポン、チャンピオン松田次生も、IRLインディカー帰りの松浦孝亮もワールドカップ カートレースを経験



山本 左近

アロンソ、ハミルトンら以外にもワールドカップ カートを経験してステップアップして行った選手は多い。初開催となった1991年に活躍したのが、今季フォース・インディアチームから13年目のF1シーズンを迎えるジャンカルロ・フィジケラ。今季ルノーチームのテストドライバーを務める山本左近も99年、00年に参戦している。スーパーアグリチームのアンソニー・デビッドソンも97年、98年と2年連続参戦。今季マクラーレンチームに抜擢されたヘイキ・コバライン、BMWのロバート・クビサはともに00年に参戦した。また同じ00年に参戦した伊沢拓也は今季フォーミュラ・ニッポン(ARTA)に抜擢され、その活躍が期待されている。他にもフォーミュラ・ニッポンでは昨年のチャンピオン松田次生が97年、98年に参戦。ベテラン本山哲(93年)も金石年弘(95、96年)も経験者だ。また昨年まで4年間アメリカ、インディカーシリーズで活躍、今シーズンフォーミュラ・ニッポン参戦を果たした松浦孝亮は97年FAクラスに参戦、ジェームス・コートニーとの死闘の末、最終ラップの最終コーナーで大逆転。見事優勝を飾り、その後のステップアップに勢いをつけたほどだった。海外からの精鋭はもちろんだが、日本国内の若手選手の走りにも大いに注目したいところだ。



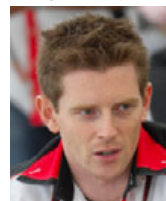
松田 次生



松浦 孝亮



G・フィジケラ



A・デビッドソン



H・コバライン



R・クビサ

近年活躍した選手も続々ステップアップ！

■J・ピアンキ(06年FAクラス2位)	07年フランス フォーミュラ ルノー、チャンピオン獲得 08年はかつてL・ハミルトンが在籍したASMからユーロF3に参戦
■J・ランカスター(06年FA参戦)	07年フォーミュラ ルノー ユーロカップ2位 08年はピアンキのチームメイトとしてユーロF3に参戦
■M・ウィットマン(07年KF1クラス6位)	08年、フォーミュラ BMW参戦
■野尻智紀(07年KF1プレファイナル2位)	08年、SRS-F(鈴鹿サーキットレーシングスクール・フォーミュラ)入校 フォーミュラ4参戦
■服部竜也(07年KF1クラス2位)	08年、SRS-F(鈴鹿サーキットレーシングスクール・フォーミュラ)入校

WORLD CUP KART RACE IN JAPAN リザルト(トップ3)

年	コース	クラス	優勝	2位	3位
1991年	鈴鹿サーキット国際南コース	FK	D・クレバレス	D・ロッシ	李 好彦
		FA	D・スミス	金子 雄一	D・アンドレ
1992年	鈴鹿サーキット国際南コース	FK	D・ロッシ	M・リタプリス	C・ヘルベルグ
		FA	A・フェデモンテ	A・ベリッキ	道上 龍
1993年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	N・ジャンニベルディ	G・フィジケラ	J・トゥルーリ
		FA	P・モロ	L・コーシオ	大脇 照男
1994年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	J・トゥルーリ	A・マネッティ	N・マッジオ
		FA	L・カサーザ	D・フォレ	J・デグートゥ
1995年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	J・トゥルーリ	松谷 隆郎	津田 浩次
		FA	D・ウェルドン	佐藤 雅洋	F・G・フラガス
1996年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	M・オルシニ	C・バリストレリ	G・ベッジオ
		FA	M・パプロビック	G・バンターノ	J・バトン
1997年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	佐野 和志	G・ベッジオ	李 好彦
		FA	松浦 孝亮	J・コートニー	R・アンティヌッチ
1998年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	松谷 隆郎	G・バンターノ	C・バリストレリ
		FA	※豪雨のため決勝レース中止		
1999年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	V・リウツツィ	E・ガンドルフィ	佐野 和志
		FA	J・ボンシェ	A・ドス・サントス	F・ペレラ
2000年	ツインリンクもてぎ 北ショートコース	FSA	D・フォレ	V・リウツツィ	C・バリストレリ
		FA	L・ハミルトン	C・ピッチオーネ	C・ブラウン
2006年	鈴鹿サーキット国際南コース	FA	A・コズリンスキー	J・ピアンキ	R・クリストッダール
2007年	鈴鹿サーキット国際南コース	KF1	M・アーディゴ	服部 竜也	G・キャッツ